

2012年3月期 業績概要

2012年 4月27日

アンリツ株式会社

代表取締役社長 橋本 裕一



東証第1部:6754
<http://www.anritsu.com>



注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

1. 事業概要
 2. 2012年3月期 連結決算概要
 3. ユーロ円建 転換社債の転換状況
 4. 会計基準の変更
 5. 2013年3月期 通期見通し
 6. 配当について
-





1. 事業概要 - 事業セグメントの呼称と事業内容 -

セグメント	サブセグメント	事業内容
計測	モバイル市場	LTE、3Gなどの携帯端末、チップセットの開発・製造・保守用テストなど
	ネットワーク・インフラ市場	光・デジタル・IP通信機器の開発・製造用テスト、有線および無線ネットワークの敷設・保守用テスト、サービスアシュアランスなど
	エレクトロニクス市場	無線設備、電子部品等の開発・製造用テスト、汎用テストなど
産業機械		食品・薬品・化粧品用重量選別機、異物検出機、電気機器プリント板向け精密計測など
情報通信		映像配信機器、通信機器、IPスイッチとその応用システムなど
その他		光デバイス、物流、厚生サービス、不動産賃貸など

2012年3月期 売上比率	計測 75%		産業機械 15%	情報 4%	その他 6%
	モバイル 約45%	ネットワーク・インフラ 約30%			
		エレクトロニクス 約25%			

2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

モバイルブロードバンドサービスを成長ドライバとして
計測事業が好調に推移

セグメント	2012年3月期 の状況	トレンド
計測	モバイル関連の計測需要が継続 ・スマートフォン向け製造用計測 ・LTE端末・チップセット向け計測	 高水準で安定
産業機械	国内外ともに堅調	
情報通信	官公庁が低調、経営構造改革を実施	
その他	総じて堅調に推移	

2. 連結決算概要 - 2012年3月期通期業績サマリー -

大幅な増収増益を達成

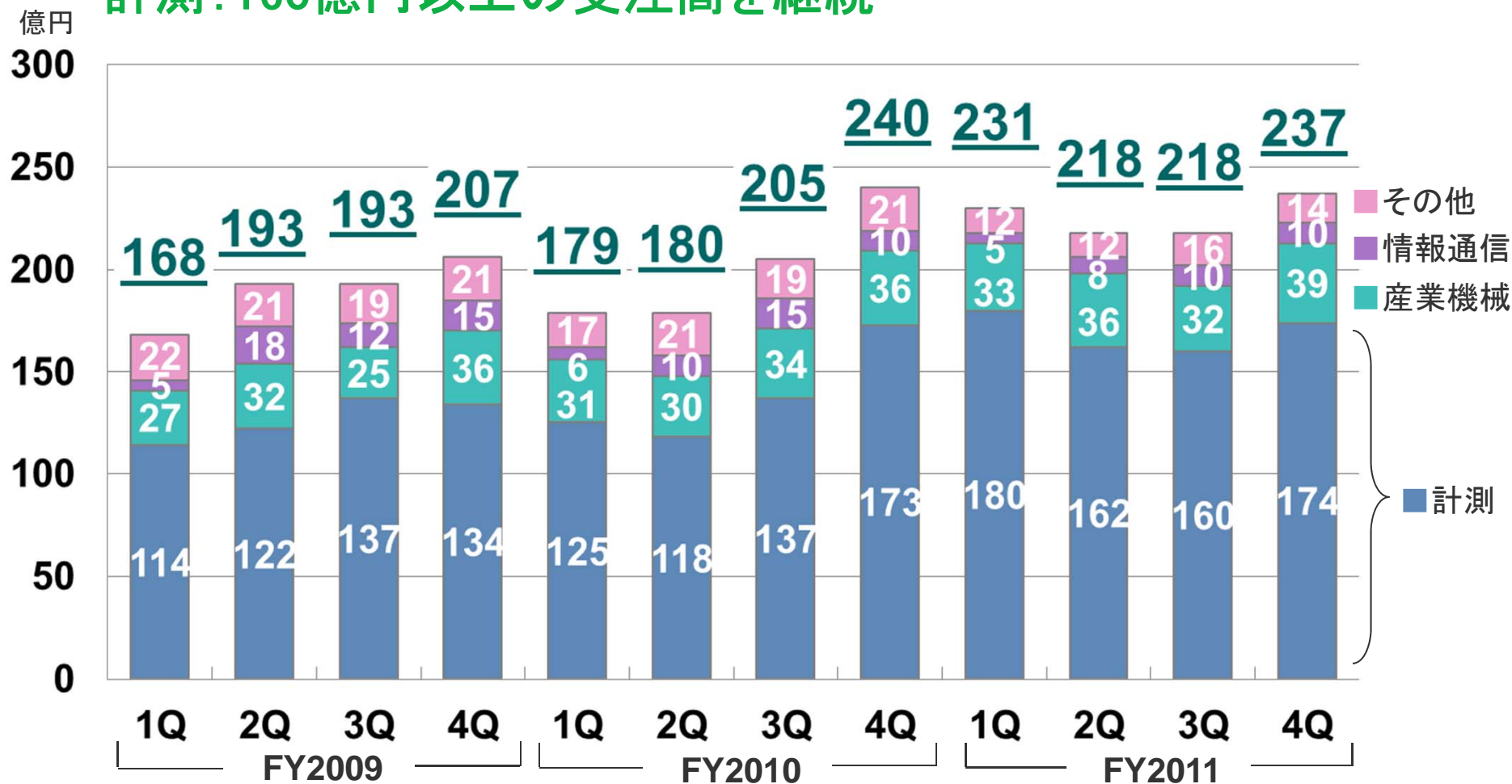
(単位:億円)

	前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
受注高	803	904	101	13%
売上高	779	936	157	20%
営業利益	70	144	74	106%
経常利益	54	136	82	154%
税引前当期純利益	42	114	72	168%
当期純利益	31	102	71	232%
フリーキャッシュフロー	78	139	61	78%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

計測: 160億円以上の受注高を継続



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

計測事業のモバイル関連ビジネスがけん引

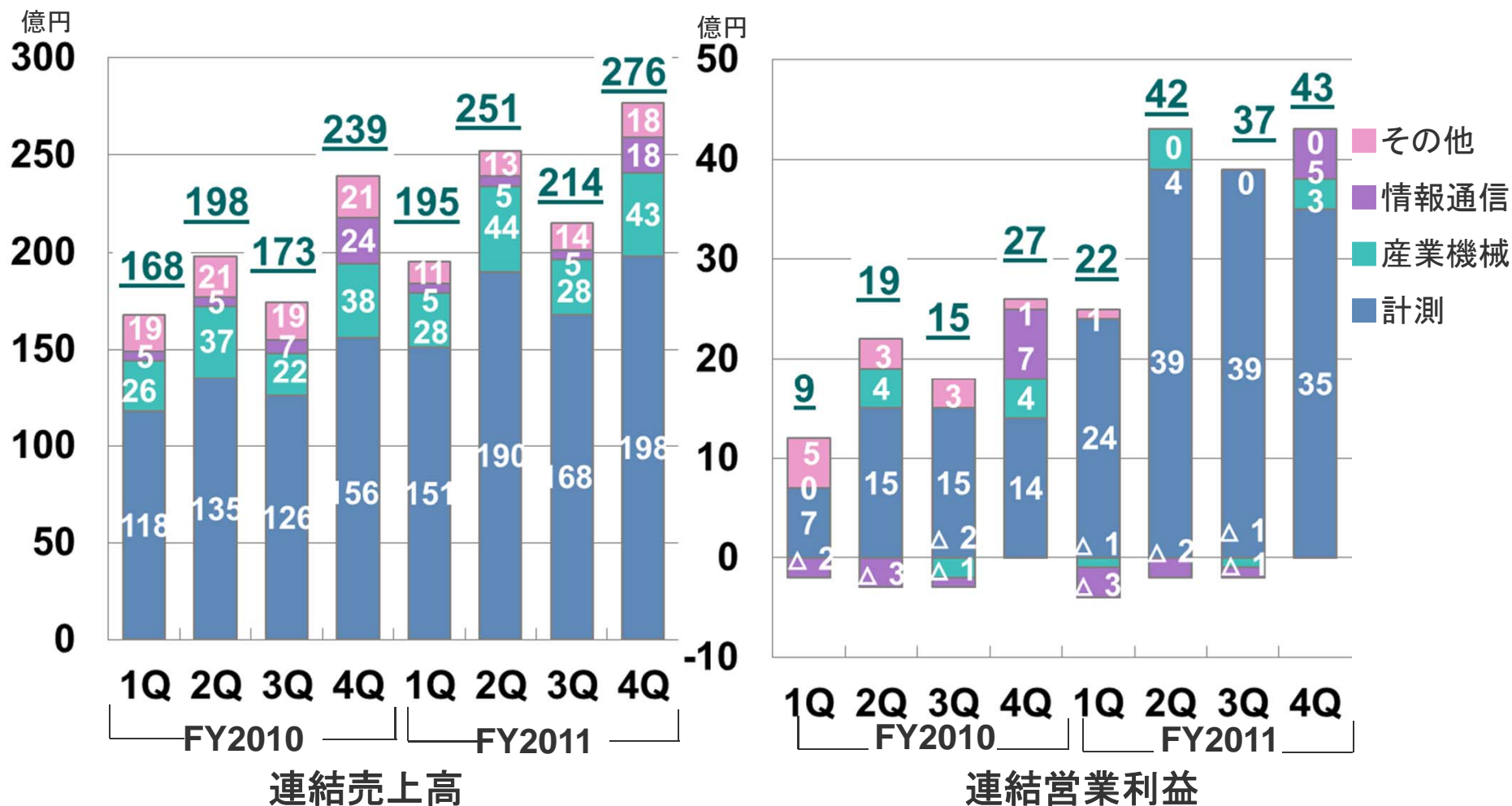
(単位: 億円)

		前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
計測	売上高	535	705	170	32%
	営業利益	51	137	86	172%
産業機械	売上高	123	142	19	15%
	営業利益	7	5	△2	△20%
情報通信	売上高	41	33	△8	△20%
	営業利益	1	△1	△2	-
その他 (含: 内部消去)	売上高	79	56	△23	△30%
	営業利益	12	3	△9	△79%
合計	売上高	779	936	157	20%
	営業利益	70	144	74	106%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業損益 -

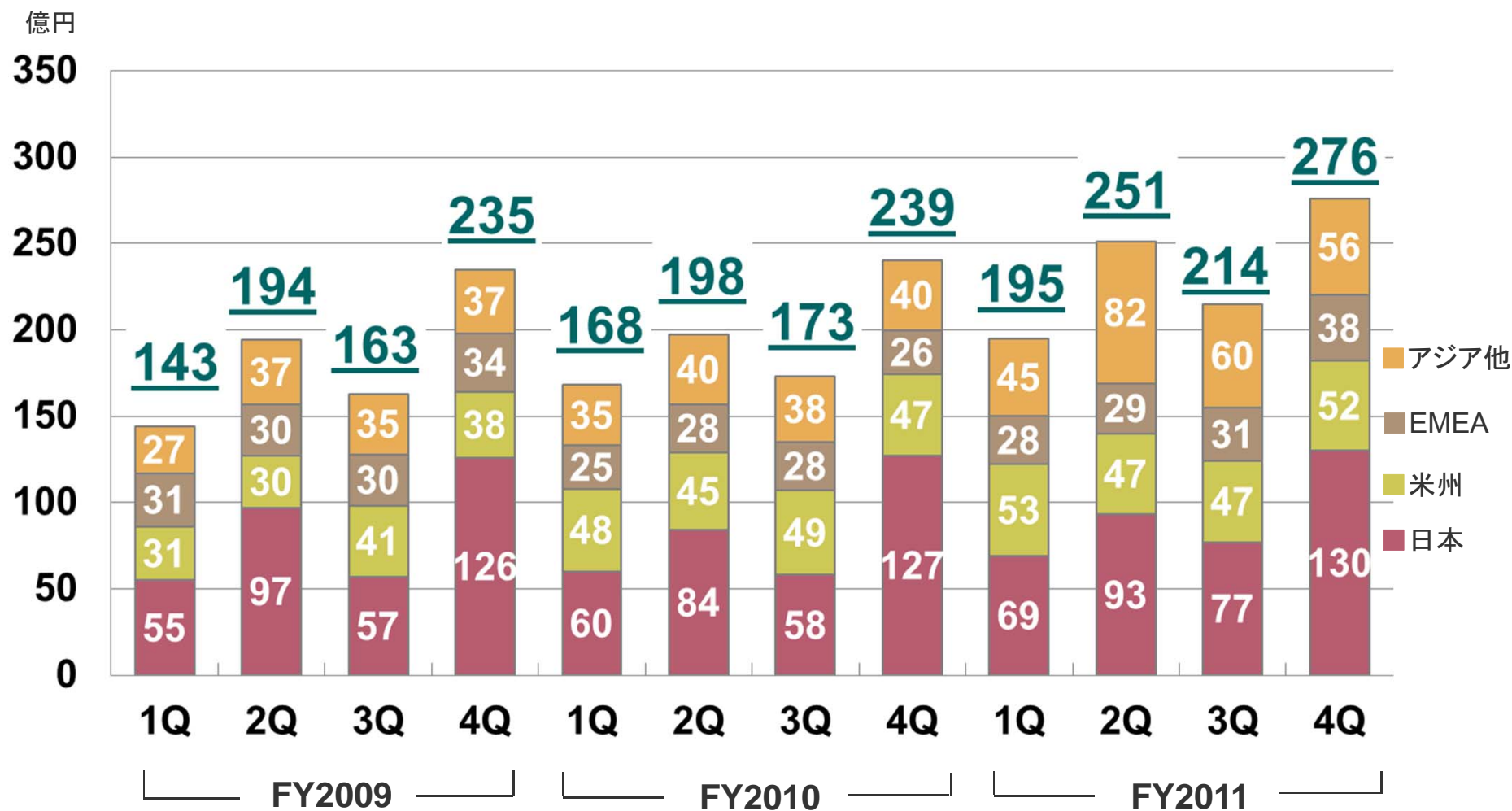
連結営業利益率: 3四半期連続 15%以上



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

全地域において、対前年で増収



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 連結決算概要 - 営業外・特別損益 -

(単位:百万円)

	前期実績	当期実績	内容
営業利益	6,994	14,415	
金融収支	△593	△410	
為替差損益	△769	△306	
その他	△270	△106	
営業外損益計	△1,632	△821	
経常利益	5,362	13,594	
投資有価証券売却益	-	10	
新株予約権戻入益	8	-	
のれん減損損失	△987	△897	ネットテスト社買収に伴う「のれん代」残存分
退職給付制度改定損	-	△528	確定拠出年金制度拡充に伴う費用
減損損失	-	△410	遊休不動産等の評価損
固定資産売却損	-	△293	デバイス事業の生産拠点移転に伴う費用
事業構造改善費用	-	△103	情報通信事業などの経営構造改革費用
投資有価証券売却損	-	△20	
投資有価証券評価損	△78	△1	
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	△68	-	
特別損益計	△1,124	△2,242	
税引前利益	4,238	11,352	

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

着実にキャッシュフローを創出

内訳

単位: 億円 △減少

FY2011通期累計

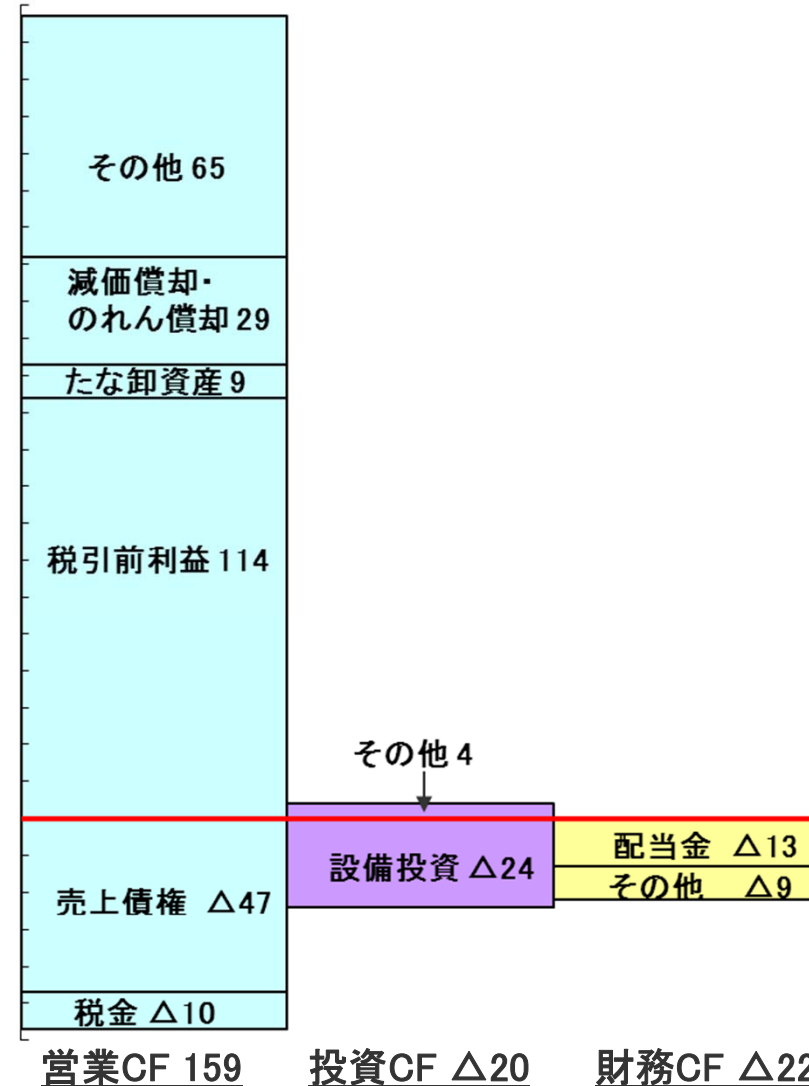
- ①営業CF: 159億円
- ②投資CF: △20億円
- ③財務CF: △22億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 139億円

現金同等物期末残高

396億円

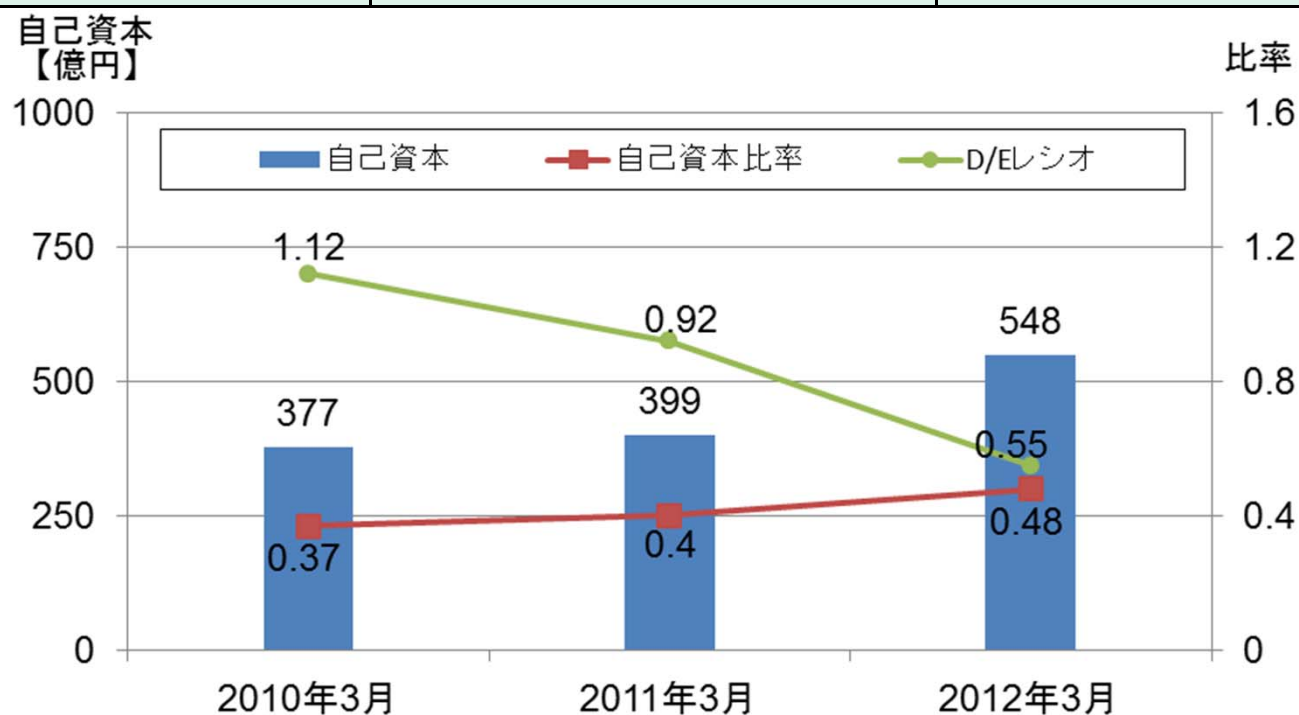


(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

3. ユーロ円建転換社債の転換状況

償還前に転換が促進し、自己資本比率、D/Eレシオが改善

発行 2010年9月28日	転換額(転換率%) 2012年3月31日現在	発行株式数 2012年3月31日現在
100億円 転換価額:629円	61億円 (61%)	発行株式数: 137,753,771株 (9,697,923株増)



4. 会計基準の変更

日本基準→国際会計基準(IFRS)

適用 2012年4月1日～

IFRS適用による主な影響

	BS	PL	備考
退職給付会計	✓	✓	<ul style="list-style-type: none">・ 未認識数理計算上の差異を一括認識・ 差異発生時に、「その他の包括利益」で全額即時認識
研究開発費	✓	✓	<ul style="list-style-type: none">・ 一定の要件を満たす費用→資産計上の上、償却処理
為替換算調整	✓		<ul style="list-style-type: none">・ IFRS移行日に過去分を利益剰余金に組替え

その他の影響: 固定資産の償却方法の変更、有給休暇引当金の計上、非上場有価証券の公正価値による算定、その他日本会計基準で特別損失に計上される費用など

5. 2013年3月期 通期の見通し(連結) : IFRS

(単位：億円)

		2012/3 期	2013/3 期		
		当期実績 (IFRS 未監査)	通期予想 (IFRS)	前期比 増減額	前期比 増減率 (%)
売上高		936	945	9	1%
営業利益		139	155	16	12%
税前利益		130	145	15	12%
当期純利益		81	100	19	23%
計測	売上高	705	700	△5	△ 1%
	営業利益	137	140	3	2%
産業機械	売上高	142	150	8	6%
	営業利益	5	10	5	100%
その他*	売上高	89	95	6	7%
	営業利益	△3	5	8	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2013/3月期から情報通信事業セグメントを、その他セグメントに統合しています。
2012/3月期実績値は未監査のため、監査により今後変更する可能性があります。

(参考) 想定為替レート: 1米ドル=80円
1ユーロ=105円

6. 配当予想について

年間配当

15円(うち、中間配当7円50銭)

(参考 2012年3月期 年間配当15円(期末配当 10円))

配当方針

株主の皆さまへの利益還元策として、連結当期純利益の水準に応じて、連結純資産配当率(DOE)を上昇させることを基本に、事業環境などの諸般の事情を総合的に考慮して決定しています。

Anritsu

Discover What's Possible™